

令和4年11月  
関西広域連合議会臨時会

報 告 書

令和4年11月28日

関西広域連合議会議員 岡 本 富 治  
同 山 西 国 朗  
同 浪 越 憲 一

## 議 事 日 程

令和4年11月3日(木)

午後1時00分開議

第 1 諸般の報告

第 2 会議録署名議員の指名

第 3 会期の決定

第 4 一般質問

第 5 令和4年8月関西広域連合議会定例会提出に係る第11号議案  
(委員長報告、討論・採決)

第 6 議員派遣の件

第11号議案

令和3年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算認定の件

令和3年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算は、別冊令和3年度関西広域連合歳入歳出決算書のとおりであるから、地方自治法（昭和22年法律第67号）第292条において準用する同法第233条第3項の規定により、議会の認定に付する。

令和4年8月25日提出

関西広域連合長 仁 坂 吉 伸

## 令和4年11月臨時会 質問項目一覧

	府縣市	質問者	質問時間	質問項目
1	徳島県	浪越 憲一 議員 (一問一答)	12分	1 人や企業を関西圏に取り込む方策について 2 関西広域サイクリングルートについて
2	鳥取県	坂野 経三郎 議員 (一括)	8分	1 ドクターヘリについて 2 広域防災について
3	大阪府	塩川 憲史 議員 (一問一答)	8分	1 カーボンフットプリントの取組について 2 MaaSを活用した移動支援の取組について 3 関西のジオパークの魅力発信について
4	大阪府	松浪 ケンタ 議員 (一問一答)	12分	1 関西連合議会のチェック機能について 2 関西広域連合委員会の全会一致の原則について 3 関西広域連合のスリム化について 4 四国広域連合の設立について
5	大阪市	北野 妙子 議員 (一問一答)	12分	1 万博会場への関西広域からの交通アクセスについて 2 武力災害への備えとしての大規模避難シェルターの設置推進について
6	堺市	吉川 敏文 議員 (一問一答)	8分	1 第5期広域計画中間案について (1) 中間案における「デジタル化」の捉え方について (2) デジタル化推進に向けた実効性のある取組について
7	兵庫県	岸本 かずなお 議員 (一括)	6分	1 広域防災の取組について 2 山陰海岸ジオパークの再認定の状況について
8	兵庫県	原 テツアキ 議員 (一括)	7分	1 瀬戸内海の水産業の振興について 2 関西広域連合でマイナンバーカードの普及
9	兵庫県	石井 健一郎 議員 (一括)	7分	1 第5期広域計画について 2 南海トラフ地震臨時情報の広報充実について
10	京都府	北川 剛司 議員 (分割)	16分	1 広域防災分野の取組について (1) 支援物資の集積・分配方式について (2) 防災担当職員の研修について (3) 広域防災訓練について (4) 外国人観光客を想定したマニュアルについて 2 関西産業の発展について (1) 関西広域産業ビジョンの達成に向けた取組について (2) 若者を惹きつける環境づくりについて (3) 多様な働き方が可能となる環境づくり等について
11	京都市	くらた 共子 議員 (一問一答)	8分	1 マイナンバーカードの義務化について 2 省庁移転について
12	滋賀県	塚本 茂樹 議員 (一問一答)	16分	1 関西地域カワウ広域管理計画（第4次）について (1) 広域で取り組む意義について (2) 関西地域における被害の現状およびこれまでの取組の評価について (3) 課題解決のための今後の取組について
13	和歌山県	林 隆一 議員 (一括)	16分	1 産業共創プラットフォーム事業について 2 関西広域連合の果たす役割及び価値について 3 広域連合長の2年間の実績に対する評価への受け止めと次期広域連合長への期待について
14	奈良県	小林 誠 議員 (一括)	12分	1 関西広域連合の地方分権について (1) 事務の共同処理のさらなる推進について (2) 関西広域連合に代わるシンクタンクの創設について

## 本県選出議員の質問概要

浪越 憲一 議員

### 1 人や企業を関西圏に取り込む方策について

#### (質問要旨)

デジタル田園都市国家構想の下、一極集中から多極集中への転換を図るため、光ファイバー、5G、データセンター等のデジタル基盤の全国への整備が推進されている。

しかし、東京・首都圏よりも関西で暮らすことが選ばれるようになるためには、単にテレワークによって東京での仕事を処理できるだけでは不十分であり、関西での暮らしが東京・首都圏では得られない特別な価値を与えてくれる必要があると考える。

徳島県神山町では、光ファイバー網が整備され、閉鎖された工場を改修し、神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックスにおいて、情報・デザイン・映像等のクリエイティブに取り組む起業家同士の交流、さらに住民を巻き込んだ交流の場が設けられており、ワーケーション、リモートワーク、サテライトオフィスなど新しい働き方を生かした地方創生の成功例の一つとなっている。

また、同じ神山町において、このたび文部科学省から19年ぶりに新設の高等専門学校の設置許可、寄附行為の認可が答申された。テクノロジー、デザイン、起業家精神が三位一体となった起業家教育を学ぶ私立高等専門学校「神山まると高専」が来年4月よりスタートをする。

スタートアップにおいては、人と人との出会い・交流の中で生まれる気づきが重要であり、これはオンラインによって代替できるものではない。東京・首都圏よりも豊かな人と人との出会い・交流の場を提供できることこそ、関西での暮らしの魅力と考える。そしてその魅力を広域的に発信していくことが必要となってくる。

そこで、関西広域連合として、スタートアップに取り組む起業家などに対し、関西への移住を呼びかけるための方策について、伺いたい。

#### (答弁要旨)

○広域産業振興担当 副委員 (海老原 諭)

関西には、大学や研究機関等が集積し、多様な分野でオープンイノベーションの取組が進められている。また、関西各地が独自の魅力を持ち、多様な価値観を持った人々が集い、交流するエリアとして、新たなイノベーションを生み出すポテンシャルを有している。

スタートアップに取り組む起業家などを関西に呼び込むためには、このような関西のポテンシャルについて、ロールモデルを示しながら具体的に情報発信をしていきたいと考えている。

こうした観点から、今年度は、ゲノム編集技術に強みを持つ徳島大学発スタートアップをはじめ、関西の優れた研究開発型スタートアップであるディープテックによるピッチイベントを開催したところである。また、関西のスタートアップ経営者や支援機関等により、関西の魅力をアピールするセッションなども行っている。

今後とも、イノベーションが次々と生み出される「ディープテックバレー “KANSAI”」のブランド確立に向け、積極的に情報発信に取り組んでまいりたい。

## 本県選出議員の質問概要

浪越 憲一 議員

### 2 関西広域サイクリングルートについて

#### (質問要旨)

サイクリングはコロナ禍において、気軽に取り組めるスポーツとして注目を集めるとともに、ヨーロッパや台湾等で人気が高く、ポストコロナ時代におけるインバウンドの起爆剤として大いに期待が持てる場所である。

このように、需要が高まる中、淡路島と四国を結ぶ大鳴門橋では、四国新幹線整備までの間、桁下の新幹線空間の有効活用の観点から、自転車道の設置実現に向け、兵庫・徳島両県や本州四国連絡高速道路株式会社が連携し、来年度の事業着手を見据えた取組が進められており、交流人口の拡大や観光振興の推進につながることを期待されている。

これに加え、徳島県ではロードバイクを分解することなく客室内に持ち込むことが可能なサイクリング専用の大型観光バス「サイクル・キャビン」を製作し、アフターコロナにおける交流人口の増加に期待しているところである。

関西広域連合では、「関西広域サイクリングルート」を8コース設定しており、これまでマップの作成、サイクリングイベントの開催などにより、日本全国はもとより世界に向けて関西の魅力を発信してきた。

今後、さらに、関西への誘客促進のための新たな付加価値として、関西広域連合の各県が持つポテンシャルを相互に活用する仕組みを構築するとともに、サイクリングロード共通の「路面案内ピクト」の整備に取り組んではどうか。

未来社会に向けた2025年大阪・関西万博への機運醸成を図りつつ、関西におけるサイクリングツーリズムの推進につなげてはどうかと考えるが、今後の方針をお伺いしたい。

#### (答弁要旨)

○スポーツ振興担当 副委員 (片山 安孝)

スポーツ部では、府県境にとらわれずに関西の魅力を体験できる「関西広域サイクリングルート」を、8ルート設定してサイクリングツーリズムを展開している。

昨年度は、このうち「京都・奈良・和歌山ルート」においてスマートフォンアプリを活用したサイクリングイベントを開催し、534名が参加した。今年度は滋賀県、京都府、奈良県を通過する「忍びの里・古都周遊ルート」において、同様に10月1日から今月30日までイベントを開催しており、現在約300名が参加している。

サイクリングは、コロナ禍において密を避けて楽しめるスポーツとして人気を博している。関西には「関西広域サイクリングルート」だけではなく、琵琶湖を一周する「ビワイチ」や淡路島を一周する「アワイチ」、「四国一周1,000Kmルート」など、魅力あるサイクリングルートが数多くある。

議員御指摘の大鳴門橋にサイクルロードを設けることについて、徳島県と兵庫県とが調整を開始しており、これが完成すれば、関西のサイクリングツーリズムをより一層盛り上げる起爆剤になるものと考えている。

また、目的地までのルートなどを道路に示す「路面案内ピクト」については、利便性の向上に有効な手段ではあるが、設置費用など様々な課題があり、関係機関との調整が必要と考える。

現在、「関西広域サイクリングルート」の8つのルートについては、スマートフォンアプリ「自転車ナビタイム」に登録し、ナビ機能によりルート案内や距離の検索、観光地へのアクセスが明示されるなど、利便性の向上を図っている。

今後も、歴史・文化・自然など関西の持つ高いポテンシャルを生かしたサイクリングツーリズムを創出するための取組を進める。